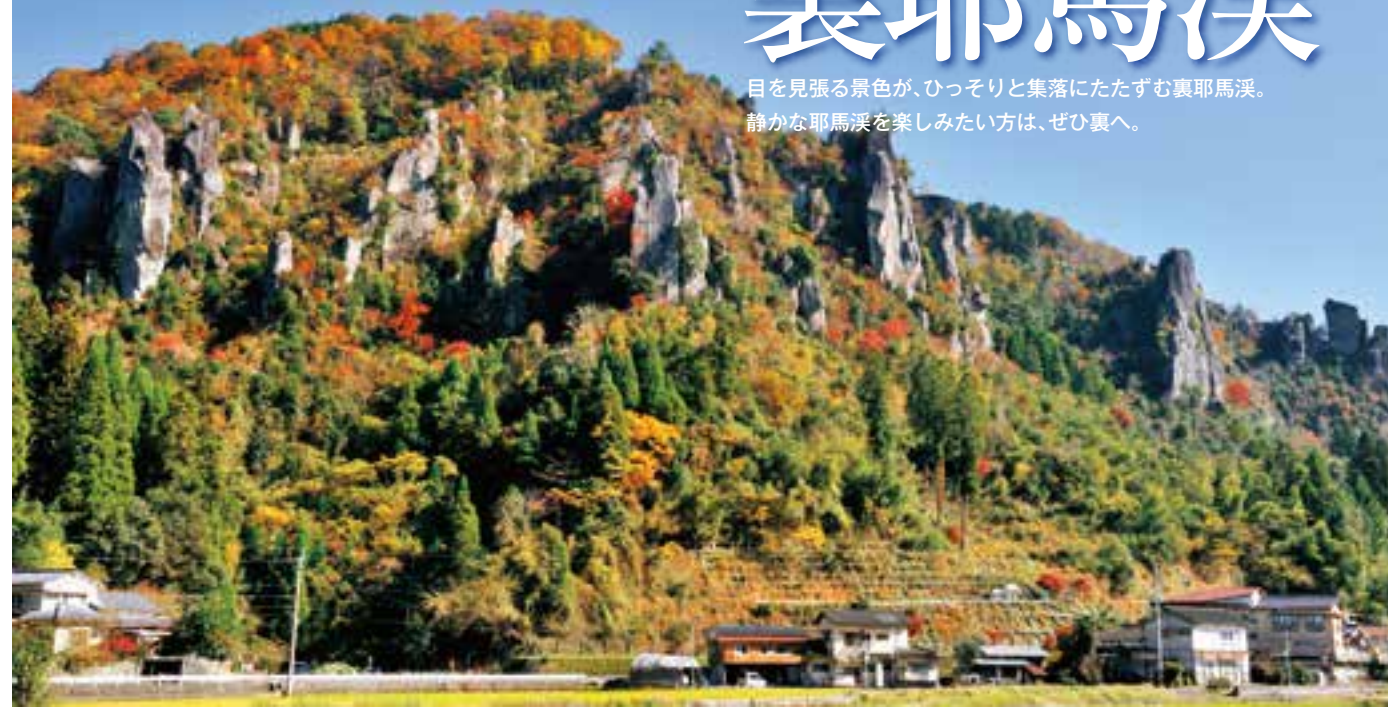


展望広場より伊福の景を望む。ベンチもありゆっくりできる。

その景観は裏ならず

裏耶馬溪

目を見張る景色が、ひっそりと集落にたたずむ裏耶馬溪。
静かな耶馬溪を楽しみたい方は、ぜひ裏へ。



No.56 龍ヶ窟の景

周囲一帯が巨岩に囲まれ大きな洞窟に入り込んだ感覚になる。入口には、巨石が鳥居のようになり立ち上がり、それをくぐり窟へ向かう。窟には大日如来坐像が安置されている。又兵衛が、大阪城落城後に中津に移り住み、この洞窟に隠遁し豊臣家の再興を期したという。地元の人々により丁寧に整備され、春秋には大祭が行われる。(P・トイレあり)



おみじのたに No.55 大藤ノ谷の景

県道43号と702号が交差する一帯。耶馬溪溶岩でできた滑らかな川底を清流が静かに流れる。藤の大きな木があることから谷の名前がついたと思われるが、樹木が生い茂り分がけつらい。三叉路の西側に岩に絡む大藤がある。(Pなし)

ひさげつる No.49-3 提鶴の景 (金吉谷の景)

提鶴バス停前の橋から対岸に渡ると見える。車で通り過ぎるにはもったいない見事な景観。県道沿いからも見上げられる。(Pなし)



みおうやま No.57 一尺八寸山の景

山国町と日田、玖珠にまたがる山頂が平らなメサ台地の山。「みおうやま」と読み、日本異様難読山名コンテストで1位に。(Pなし)



やまうら No.49-2 山浦の景 (金吉谷の景)

金吉川沿い山浦バス停の北側山腹。この近くで平成30(2018)年4月11日、山崩れが発生。自然の脅威を忘れずに訪れたい。(Pなし)



たくみ No.50 内匠の景

県道43号沿い馬勢入口バス停を左折し標識に従い進むと、旧森藩内では最も古いという人工池と屏風岩がそびえる。(Pあり)



こうだきよう No.49-1 幸田峡の景 (金吉谷の景)

幸田川沿いの左手に続く岩峰。頭上に迫る岩脈を、植林に邪魔されながら宝探しのように探す。渓谷も静かで美しい。(Pなし)



やまだ No.49-5 山田の景 (金吉谷の景)

伊福から広域農道を上り、トンネル手前の右手にそびえる。その先には不思議な形の「合格祈願岩」や「猿の飛岩」もある。(Pあり)



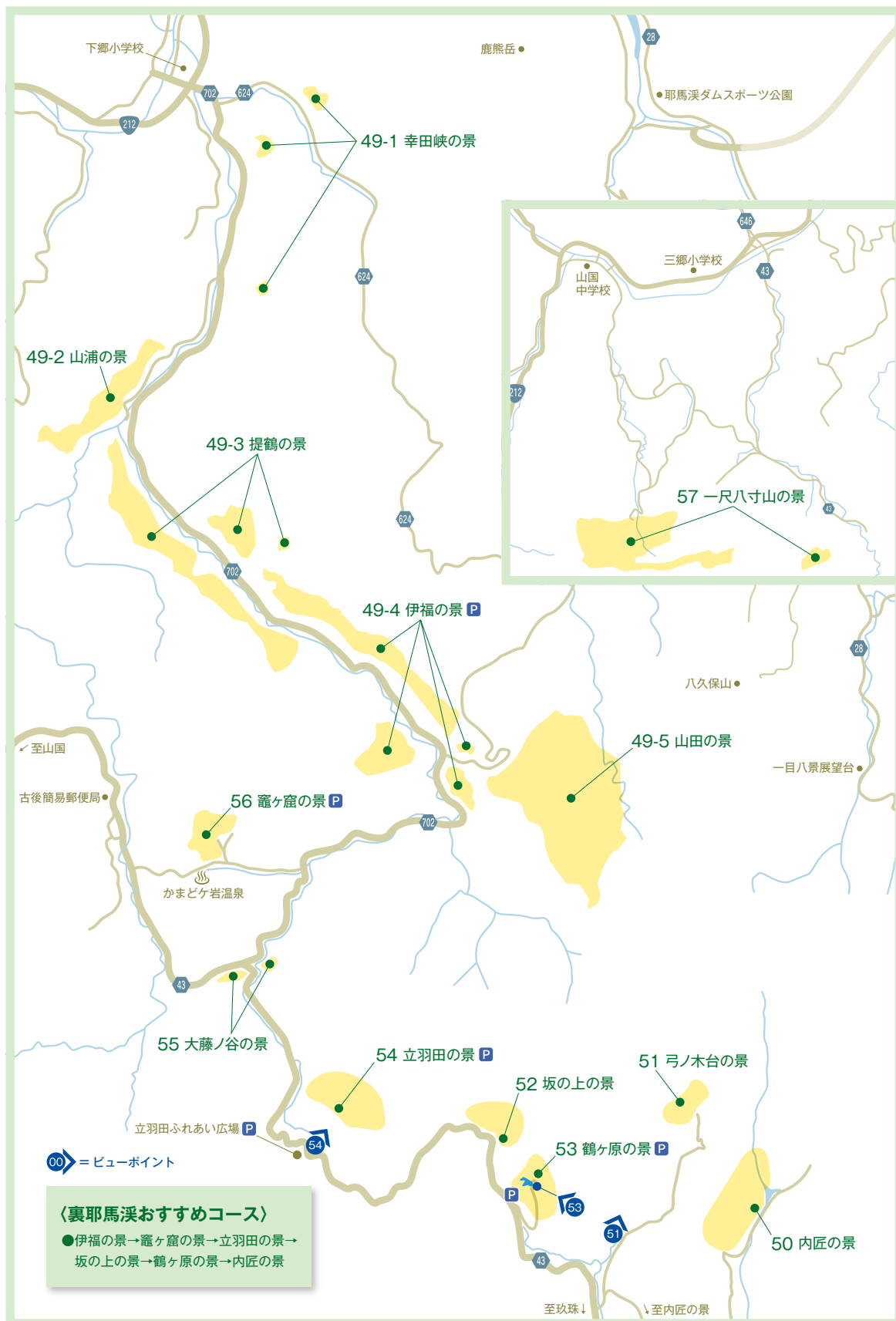
いふく No.49-4 伊福の景 (金吉谷の景)

周囲を山に囲まれ、おとき話に出て来そうなどかな集落にぽつかりとそびえる小山。山腹に突き出た奇岩は、まるで山から生えてきたかのように天に伸びる。展望広場でゆっくりと鑑賞できる。この地には、史実では大坂夏の陣で戦死したはずの戦国武将、後藤又兵衛の墓がある。

近くに又兵衛が隠れ住んでいたと伝わる龍ヶ窟もある。あわせて訪れたい。(P・トイレあり)



広域農道(メイプルファームロード耶馬)から見た「猿の飛岩」。



鶴ヶ原の景

つるがはる

鶴ヶ原の池までは、駐車場から徒歩10分。静かな湖面の向こうにオベリスクのように岩峰がそびえる。周囲の景観と空が水面に映り庭園のようだ。森藩主の別邸があったというのも頷ける。案内板には鶴ヶ原八十八ヶ所石仏巡りとあり、池の周囲に点在する磨崖仏を巡回できる。遊歩道があったようだが、現在は荒れていて進めず。
(Pあり)



立羽田の景

たちはた

のどかな田園風景の上にそそり立つ裏耶馬溪を代表する景。高台から見下ろすことができまるで箱庭を眺めているようだ。暮らしのそばにある景勝地。耶馬溪の魅力を感じられる場所。
(Pあり)



弓ノ木台の景

ゆみのきだい

立羽田の景から県道43号を南下し、鶴川温泉を過ぎた先の馬勢入口バス停を左折し進むと正面の山腹に見える。(Pなし)



坂の上の景

さかのうえ

県道43号沿いの池周辺にそそり立つ岩峰。坂の上の景と鶴ヶ原の景は、集落が守ってきた民間信仰の聖域といわれる。県道脇の岩上に祀られた不動尊像や観音像は、地元の篤志家により建立された。(Pなし)





展望所からメサ地形の伐株山(きりかぶやま)、その奥に万年山(はねやま)を望む。



角埋山 登山MAP

●コースタイム
往復約40分

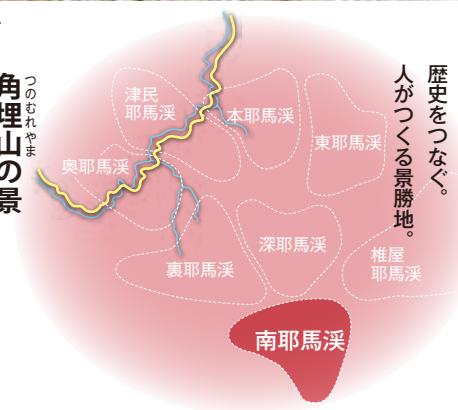
興したといわれる末廣神社や、くしゅう連山を眺望に取り込んだ茶室「栖鳳楼」の庭園など、丘陵そのものの地形を巧みに利用した旧久留島氏庭園があり、角埋山の山頂から麓まで回遊することで歴史を学べる公園のようになっている。角埋山の環境は、山を愛する地元の人々の志が集まった「つむれ会」の人々により守られて来た。遊歩道の草刈りの他、恒例の親子登山会で山の歴史を案内するなど、自然環境だけでなく、歴史と文化を守りつなぐ活動が続いている。平成17(2005)年には国指定の史跡となった。景勝地は、地元の人々に愛され守られることでこそ、継承されていくものなのだと考えさせられる。(Pあり)



角埋神社の不動明王。大きな目と、足の指が源為朝を表す。



城跡の中で1番大きな二の丸南虎口石垣(みなみこぐちいしがき)。



角埋山の景

玖珠盆地にそびえる標高577メートルの角埋山。ピュート地形を成す山の上には、天然の岩壁を利用した角半礼城があった。天正15(1587)年の大友・島津の戦いの際、6千人の島津兵に對しわずか1千人で守り切った難攻不落の城として知られる。土塁や竪堀のある中世の山城が、近世初頭の縄張りを持つ城郭に改修されており、土造りの城から石垣を主体とした城への変遷がみられ、全国的にも珍しい遺構がそのまま残っている。

山頂南側にある角埋神社には、右足の指だけ6本ある不動明王が安置され、源為朝が祀られている。山麓にも見所が多い。城を持つことを許されなかった森藩主、久留島通嘉が城に似せて再

玖珠・森城下町

100年前に耶馬溪観光の入口として再興された森城下町には、明治から大正時代の歴史的建造物が残る。日本のアンデルセンと呼ばれた児童文学者久留島武彦の記念館もあり、通りには桃太郎や一寸法師など、童話の像が並ぶ。(P・トイレあり)

日本一小さな城下町歩き



きゅうぶんごもりきかんこ 旧豊後森機関庫

久大線を走るSLなどを格納していた九州で唯一の扇型機関庫。戦時中に機銃掃射を受けた傷跡も残り、歴史を語る登録有形文化財、近代化産業遺産であるこの一帯が公園となっており、豊後森機関庫ミュージアムや大正6(1917)年に製造された蒸気機関車も展示されている。(P・トイレあり)



山麓の旧久留島氏庭園から見上げた角埋山。



旧久留島氏庭園。藩主御殿の庭園は丘陵斜面に巨石を大胆に配している。

清水瀑園の景

No.58

豊の国名水15選の1つで、玖珠の仲田川にかかる飛瀑群。山から湧き出た水が40余りの小さな滝を作り出しているとい

うからその水量に驚かされる。1日に数10万トンといわれ、農業用水として田畑を潤している。明治時代まで雨乞いの行事が行われていた。

てきたが、平成3(1991)年の台風で被害を受ける。傷ついたお不動さんが被害の大きさを物語る。遊歩道が整備されているが、雨の後は滑りやすいので要注意。駐車場に水汲み場がある。(P・トイレあり)



黒岳の景

No.61

県道409号を玖珠から日出生台へ向かう途中、左手にある牧場の奥になだらかな丘が見える。山麓の牧草地では、放牧が行われている。(Pなし)

九重町の松木川にかかる落差20メートル、幅40メートルの滝。鎌倉時代に中国から渡来した僧侶が、自国の龍門滝に似ていることにより名付け、この地に龍門寺を建立した。夏には滝滑りを楽しむ子どもたちで賑わう。県道を挟んで南側に小滝がある。(P・トイレあり)

龍門滝・小滝の景

No.60



南耶馬溪エリアMAP





せんいのいわ
仙ノ岩の景

No. 64

竜王山の南側に1キロにも及び岩峰が並ぶ様は、さながら宇佐の競秀峰である。100メートルの絶壁平岩、馬溪随一の岩柱剣ヶ岳、屏風岩などの峰からなり、千年以上も昔から修験の山であった。頂上の展望台からは由布岳を正面に望める。(P・トイレあり)



ひがしいや
東椎屋の滝の景

No. 65

落差85メートルの迫力ある様は、「九州華厳」と呼ばれる。運が良ければ滝の裏に観音様が見えることも。滝壺までの渓谷も庭園のようで美しい。帆足萬里の詩碑もある。駐車場から滝までは徒歩8分。日本の滝百選の1つ。(P・300円・トイレあり)

にししいや
西椎屋の滝の景

No. 62

鬱蒼とした緑の中に真っ白な滝がとどろき流れ落ちる。どこかのジャングルでも眺めている気になる。日出生タムの横を抜けた突き当りに看板と駐車スペースがある。落差が86メートルもあり、日本の滝百選の1つに選ばれている。(Pあり)



りゅうせんじ
龍泉寺の滝の景

No. 63

その名は、龍泉寺(現在は廃寺の境内から見られたことに由来する。現在は福貴野の滝と呼ばれている。宇佐の三滝(東椎屋、西椎屋)の中では落差が65メートルと最も低いため子滝と呼ばれるが、水が何にもぶつかることなく垂直に落ちる様は優雅。朝日が差し込むと虹が出ることも。展望台と滝壺の2箇所から望める。滝壺は、県道から細い坂道を登り、民家の間を抜けた突き当たりにある。やや荒れた石の道を歩く。また、滝の裏側に回ることのできる裏見の滝でもある。(P・トイレあり)

椎屋耶馬溪

三滝二様の滝めぐり
宇佐・玖珠の三滝をめぐらううちに滝をつくるのは岩だと気づく。それで最後に仙ノ岩を訪れた。

